

目次

東北運輸局編

■ 本書について	2
■ 略語について	3
■ 最近の主な改正概要	4

第1章 車両法

1 目的・用語・自動車の種別	7
2 自動車の登録制度	9
3 保安基準	13
4 自動車の点検整備制度	14
5 自動車の検査制度	19
6 認証制度	27
7 指定制度（工場関係）	34
8 指定制度（検査員関係）	40
9 指定制度（保安基準適合証関係）	41
10 指定制度（記録簿・罰則・変更届）	55

第2章 保安基準

1 自動車の構造関係	62
2 自動車の装置一般	68
3 自動車の車体関係	73
4 自動車の室内関係	80
5 自動車の灯火関係	87
6 後写鏡・速度計 他	101
7 テスタ等による機能維持確認	103

第3章 計算問題

1 ブレーキ制動力	117
2 年度別計算問題	119

第4章 年度別試験問題

1 令和6年度 第1回	131
2 令和6年度 第2回	141
3 令和5年度 第1回	152
4 令和5年度 第2回	162
5 令和4年度 第1回	172
6 令和4年度 第2回	182

第5章 暗記ノート

《法令の改正》

◎車両法：令和7年6月1日
法律第68号まで

◎施行規則：令和7年4月1日
国土交通省令第67号まで

◎点検基準：令和5年12月21日
国土交通省令第86号まで

◎審査規程：令和7年1月31日
第62次改正まで

本書について

本書は、東北運輸局において令和4年度第1回から令和6年度までに行われた3年分（合計6回）の自動車検査員教習試験の内容をジャンル別にまとめたものです。

ジャンルは大きく次の5つに区分してあります。

第1章 車両法（10区分）

第2章 保安基準（7区分）

第3章 計算問題（3年分／6回）

第4章 年度別試験問題（3年分／6回）

第5章 暗記ノート

第1章と第2章については、過去の試験問題を更に細かく分類し、各項目ごとに「過去出題例」を先に掲載し、その後に問題の法的根拠となる「関係法令」を掲載しています。

過去の試験問題の出題パターンは次の3つに分類できます。

①○×式…設問が適切な場合は○、不適切な場合は×を記入する

②選択式…問題文の空白部分に当てはまる適切な字句を選択肢から選んで記号を記入する

③記述式…問題文の空白部分に当てはまる適切な字句または数値を記入する

本書では、①の○×式はそのまま、②及び③の穴埋め問題については全て記述式としました。

各問題文の最後には試験年度を記載してあります。[R6.1]であれば、令和6年度第1回の試験問題、[R4.2]であれば令和4年度第2回の試験問題であることを示します。[R4.2/R4.1]の場合は、令和4年度第2回と令和4年度第1回に同じ問題が出題されていることを示します。

[R4.1改]など「改」と記載があるものは、試験実施後に法令の改正等があった部分について、改正後の法令に合うように問題文を書き換えていることを示します。なお、本書は令和7年6月1日時点の法令を基準としています。

関係法令については、原文のまま掲載すると分量が相当多くなるほか、そのままでは理解しにくいため、編集部で一部、手を加えている部分もあります。また、保安基準については、「細目告示」と「審査事務規程」の2つの法令がありますが、本書では「審査事務規程」を収録しています。

第3章では、「ブレーキ制動力」の計算問題について、計算式を示しわかりやすく解説しています。

第4章の「年度別試験問題」は、令和6年度第1回から過去3年分（6回分）の問題を年度ごとにまとめてあります。「模範解答」には正解と、問題の法的根拠となっている法令名及び条項を記載しています。なお、計算問題の計算式と正解については第3章に掲載しているため省略しています。

第5章の「暗記ノート」は、東北運輸局の検査員教習試験を対象に、過去問題の中から出題頻度の高いものを抜粋し、暗記用としてまとめたものです。

保安基準・審査事務規程は、自動車の製作年月により適用規定が異なるなど、わかりにくい部分が多々あります。本書に併せて、弊社発行の「自動車検査ハンドブック令和7年版」もしくは「自動車検査ハンドブックワイド令和7年版」（いずれも定価2,200円）、審査事務規程の原文については「保安基準と審査事務規程〔原文〕令和7年版」（定価3,000円）をご活用ください。

法令改正について：令和7年6月1日時点での法令に対応しています。したがって、6月以降の法令改正については、ご注意ください。

◎本書の内容に訂正がある場合は、弊社のホームページに掲載致します。

株式会社公論出版 ホームページ 書籍サポート/訂正

URL： https://kouronpub.com/book_correction.html または右の二次元コードよりご確認ください。



最近の主な改正概要

※本書に収録のない改正も含む。

◆車両法◆

1. 罰則規定における用語変更〔令和4年6月17日及び令和5年11月10日交付・令和7年6月1日施行〕

車両法第8章の罰則において用いられている用語「懲役又は禁錮の刑」及び「懲役」について、「拘禁刑」に変更された。

◆施行規則◆

1. 特定整備の該当部品追加〔令和6年3月21日公布・同日施行〕

動力伝達装置のドライブ・シャフトを取り外して行う整備・改造について、特定整備における分解整備に該当するとされた。〔第3条第1号第2号〕

2. 自動車特定整備事業者の遵守事項追加・その1〔令和6年3月21日公布・同年10月1日施行〕

OBD検査開始に伴い、いわゆるOBD検査システムを使用する事業者は、次の事項を遵守することとされた。〔第62条の2の2第1項に条文追加〕

①安全性を確保するために必要な措置を講ずること。…セキュリティーやパスワードの管理を行うこと。〔第6号の3〕

②正確な情報を記録すること。…替え玉受検や敷地外での確認・検査等を行わないこと。〔第6号の4〕

3. 自動車特定整備事業者の遵守事項追加・その2〔令和6年4月30日公布・同年6月30日施行〕

工員数が5人以下である場合や自ら管理するウェブサイトを持していない場合を除き、点検・整備料金をウェブサイトに掲載することとされた。〔第62条の2の2第1項第1号〕

4. 2か月前から継続検査が可能〔令和6年6月25日公布・令和7年4月1日施行〕

年度末における混雑緩和のための措置として、離島以外であっても2か月前から継続検査を受けることが可能となった。〔第44条第1項〕

5. 第一種原動機付自転車の排気量拡大〔令和6年11月13日公布・同日施行〕

最高出力が4.0kW以下の二輪自動車については、総排気量0.125ℓ以下までが第一種原動機付自転車であるとした。〔第1条第2項〕

◆審査規程◆

◆第56次改正〔令和6年3月28日施行／令和6年4月1日施行〕

1. 「窓ガラスの透過率（可視光線透過率測定器）」測定条件変更

従来は、当該窓ガラスに着色フィルム等が装着等されたことにより、70%を下回る「おそれ」があると認められたときは、可視光線透過率測定器を用いて可視光線透過率を計測する、と規定されていた。改正により、フィルム類その他が装着等されていることが「確認されたとき」は、可視光線透過率測定器を用いて可視光線透過率を計測する、とされた。

2. ガソリン・液化石油ガスを燃料とする大型特殊自動車の「令和6年排出ガス規制」開始

新型車については令和6年10月1日以降（継続生産車、排出ガス非認証車及び輸入自動車については令和9年10月1日以降）の製作車であって、定格出力19kW以上560kW未満のガソリン・液化石油ガス（LPG）を燃料とする大型特殊自動車には、新車時のCO及びNO_xの数値を強化した「令和6年排出ガス規制」が適用されることとなった。

第1章 車両法

1. 目的・用語・自動車の種別

1. 車両法の目的	7
2. 用語の定義	7
3. 自動車の種別（法令）	8
4. 自動車の種別（別表第1）	8

2. 自動車の登録制度

1. 登録の一般効力	9
2. 自動車登録番号標の封印等	10
3. 変更登録・移転登録	10
4. 一時抹消登録	11
5. 自動車登録番号標の表示	11
6. 車台番号等の打刻	12
7. 打刻の塗まつ等の禁止	12
8. 臨時運行	13

3. 保安基準

1. 保安基準	13
---------	----

4. 自動車の点検整備制度

1. 点検及び整備の義務	14
2. 日常点検整備	14
3. 定期点検整備（点検期間）	14
4. 定期点検整備（点検内容）	16
5. 点検整備記録簿	17
6. 整備命令	18

5. 自動車の検査制度

1. 自動車の検査及び自動車検査証	19
2. 新規検査	19
3. 自動車検査証の有効期間	19
4. 自動車検査証の有効期間の起算日	21
5. 継続検査	21
6. 自動車検査証の備付けと検査標章の表示	21
7. 自動車検査証記録事項の変更	22
8. 自動車検査証等の再交付	22
9. 予備検査	22
10. 限定自動車検査証	22
11. 自動車部品を装着した場合の取扱い	23

6. 認証制度

1. 認証	27
2. 認証基準	27
3. 特定整備の定義	28
4. 特定整備事業者の変更届	29
5. 特定整備事業者の標識	30
6. 特定整備事業者の義務	30

7. 特定整備記録簿	30
8. 設備の維持等	31
9. 特定整備事業者の遵守事項	31
10. 整備主任者	33

7. 指定制度（工場関係）

1. 指定自動車整備事業の指定	34
2. 指定工場の設備、技術及び管理組織	35
3. 検査の設備の基準	37
4. 要員関係の基準の解釈	37
5. 作業場等の基準の解釈	38
6. 対象自動車の指定	38
7. 設備の維持	39
8. 検査用機器の校正	40

8. 指定制度（検査員関係）

1. 自動車検査員の選任	40
2. 自動車検査員の兼任	41
3. 自動車検査員の解任	41

9. 指定制度（保安基準適合証関係）

1. 指定事業者による保安基準適合証等の交付	41
2. 指定事業者による点検の基準	43
3. 自動車検査員による検査（検査等の基準）	43
4. 自動車検査員による証明	45
5. 自動車検査員の作業区分	46
6. 保安基準適合証等の有効期間	47
7. 保安基準適合証を提出した場合の取扱い （現車提示の省略）	48
8. 保安基準適合標章の表示	49
9. 保安基準適合証の取扱い（記載方法）	49
10. 保安基準適合証等の取扱い （不正使用の防止等）	50
11. 走行距離計表示値の取扱い	51
12. 保安基準適合証の取扱い （最終の検査申請日）	51
13. 自賠償保険証明書の備付け	54
14. 自賠償保険証明書の提示	54
15. 限定保安基準適合証	54

10. 指定制度（記録簿・罰則・変更届）

1. 指定整備記録簿（記載事項・保存期間）	55
2. 指定整備記録簿（記載要領）	56
3. 指定事業者への罰則の適用	57
4. 不正使用等の禁止	57
5. 不正改造等の禁止	57

1. 目的・用語・自動車の種別

1 車両法の目的

【過去出題例】

- ☑1. この法律は、道路運送車両に関し、所有権についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び公害の防止その他の環境の保全並びに整備についての（ ）の向上を図り、併せて自動車の整備事業の健全な発達に資することにより、公共の福祉を増進することを目的とする。[R6.2]
- ☑2. この法律は、道路運送車両に関し、所有権についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び公害の防止その他の環境の保全並びに整備についての（ ）を図り、併せて自動車の整備事業の健全な発達に資することにより、公共の福祉を増進することを（ ）とする。[R6.1]
- ☑3. この法律は、道路運送車両に関し、所有権についての公証等を行い、並びに（ ）の確保及び公害の防止その他の（ ）の保全並びに整備についての技術の向上を図り、併せて自動車の整備事業の健全な発達に資することにより、公共の福祉を増進することを目的とする。[R5.2/R5.1]
- ☑4. この法律は、道路運送車両に関し、所有権についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び（ ）の防止その他の環境の保全並びに整備についての（ ）の向上を図り、併せて自動車の整備事業の健全な発達に資することにより、公共の福祉を増進することを目的とする。[R4.2]
- ☑5. この法律は、道路運送車両に関し、所有権についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び公害の防止その他の環境の（ ）並びに整備についての技術の向上を図り、併せて自動車の（ ）の健全な発達に資することにより、公共の福祉を増進することを目的とする。[R4.1]

◎正解 1…技術：2…技術の向上/目的：3…安全性/環境：4…公害/技術：
5…保全/整備事業

【関係法令】

◆車両法◆第1条（この法律の目的）

1. この法律は、道路運送車両に関し、所有権についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び公害の防止その他の環境の保全並びに整備についての技術の向上を図り、併せて自動車の整備事業の健全な発達に資することにより、公共の福祉を増進することを目的とする。
- ▷「公証」行政上、特定の事実又は法律関係の存在をおおやけに証明すること。
 - ▷「資する」助けとなる。役立つ。
 - ▷「公共の福祉」社会全体に共通する幸福・利益。
 - ▷毎年必ず出題！全文を覚える！

2 用語の定義

【過去出題例】

- ☑1. 道路運送車両法で定める「道路運送車両」とは、自動車、原動機付自転車及び軽車両をいう。
[R6.2/R5.2]
- ☑2. この法律で「自動車」とは、原動機により陸上を移動させることを目的として製作した用具で軌条若しくは架線を用いないもの又はこれにより牽引して陸上を移動させることを目的として製作した用具であって、次項に規定する（ ）以外のものをいう。[R4.2]

◎正解 1…○：2…原動機付自転車

【関係法令】

◆車両法◆第2条（定義）

1. この法律で「道路運送車両」とは、自動車、原動機付自転車及び軽車両をいう。
2. この法律で「自動車」とは、原動機により陸上を移動させることを目的として製作した用具で軌条若しくは架線を用いないもの又はこれにより牽引して陸上を移動させることを目的として製作した用具であつて、次項に規定する原動機付自転車以外のものをいう。

3 自動車の種別（法令）

【過去出題例】

- ☑1. この法律に規定する普通自動車、小型自動車、軽自動車、大型特殊自動車及び小型特殊自動車の別は、自動車の（ ）及び構造並びに原動機の種類及び総排気量又は定格出力を基準として国土交通省令で定める。[R5.1]
- ☑2. この法律に規定する普通自動車、小型自動車、軽自動車、大型特殊自動車及び小型特殊自動車の別は、自動車の大きさ及び構造並びに原動機の種類及び（ ）又は定格出力を基準として国土交通省令で定める。[R6.2/R6.1/R4.1]

◎正解 1…大きさ：2…総排気量

【関係法令】

◆車両法◆第3条（自動車の種別）

1. この法律に規定する普通自動車、小型自動車、軽自動車、大型特殊自動車及び小型特殊自動車の別は、自動車の大きさ及び構造並びに原動機の種類及び総排気量又は定格出力を基準として国土交通省令〔施行規則第2条〕で定める。
 - ▷自動車は、「大きさ」「構造」「原動機の種類」「総排気量又は定格出力」を基準として、「普通」「小型」「軽」「大特」「小特」の5種類に分類される。
 - ▷自動車の種別に大型自動車は定義されていない。

4 自動車の種別（別表第1）

【過去出題例】

- ☑1. 令和3年に製作された総排気量が1.79ℓの内燃機関を原動機とする四輪自動車であつて、長さ4.60m、幅1.78m、高さ1.43mの自動車の種別は、小型自動車である。[R6.2]
- ☑2. 令和2年に製作された総排気量が1.18ℓの内燃機関を原動機とする四輪自動車であつて、長さ4.78m、幅1.68m、高さ1.98mの自動車の種別は、小型自動車である。[R6.1]
- ☑3. 平成26年に製作されたガソリンを燃料とする総排気量が2.49ℓの内燃機関を原動機とする四輪自動車であつて、長さ4.69m、幅1.69m、高さ1.80mの自動車の種別は、小型自動車である。[R5.2]
- ☑4. 平成30年に製作された総排気量が0.65ℓの内燃機関を原動機とする四輪自動車であつて、長さ3.35m、幅1.55m、高さ1.72mの自動車の種別は、軽自動車である。[R5.1]
- ☑5. 平成27年に製作された総排気量が1.49ℓの内燃機関を原動機とする四輪自動車であつて、長さ4.56m、幅1.69m、高さ1.90mの自動車の種別は、普通自動車である。[R4.2]
- ☑6. 平成25年に製作された総排気量が1.99ℓの内燃機関を原動機とする四輪自動車であつて、長さ4.69m、幅1.75m、高さ1.80mの自動車の種別は、小型自動車である。[R4.1]

◎正解 1…×（小型⇒普通）：2…×（小型⇒普通）：3…×（小型⇒普通）：4…×（軽⇒小型）：5…×（普通⇒小型）：6…×（小型⇒普通）

第2章 保安基準

本章では、製作年月の記載が無い場合、全て令和4年1月製作車としている（第4章においても同じ）。
なお、特に注釈のない限り、二輪自動車、側車付二輪自動車、三輪自動車、大型特殊自動車及び最高速度20km/h未満の自動車の基準（審査規程）については省略している。

1. 自動車の構造関係

1. 不適切な補修等	62
2. 長さ、幅及び高さ	63
3. 最低地上高	64
4. 車両総重量・軸重・輪荷重	65
5. 安定性	67
6. 最小回転半径	68

2. 自動車の装置一般

1. 速度抑制装置	68
2. 走行装置	69
3. 制動装置	70
4. 緩衝装置	71

3. 自動車の車体関係

1. 車枠及び車体	73
2. 車体表示	75
3. 巻込防止装置	76
4. 突入防止装置	77
5. 前部潜り込み防止装置	79

4. 自動車の室内関係

1. 乗車装置	80
2. 運転者席	80
3. 座席	81
4. 座席ベルト	81
5. 座席ベルト非装着時警報装置	82
6. 頭部後傾抑止装置	83
7. 乗降口	83
8. 非常口	84
9. 物品積載装置	84
10. 窓ガラス	85
11. 窓ガラス貼付物等	85

5. 自動車の灯火関係

1. 走行用前照灯	87
2. すれ違い用前照灯	88
3. 前部霧灯	89
4. 側方照射灯	90
5. 車幅灯	90
6. 前部反射器	91
7. 側方灯・側方反射器	91
8. 尾灯	92
9. 後部霧灯	92
10. 後部反射器・大型後部反射器	93
11. 再帰反射材	94
12. 制動灯	94
13. 補助制動灯	95
14. 後退灯	96
15. 方向指示器	96
16. その他の灯火等の制限	98

6. 後写鏡・速度計 他

1. 後写鏡	101
2. 速度計	101
3. 消火器	102
4. 運行記録計	102

7. テスタ等による機能維持確認

1. かじ取車輪の整列状態 （サイドスリップ・テスタ）	103
2. 近接排気騒音の大きさ（騒音計等）	103
3. 騒音防止装置（近接排気騒音の測定方法）	107
4. CO・HCの濃度（CO・HCテスタ）	107
5. 光吸収係数又は黒煙による汚染度 （オパシメータ又は黒煙測定器）	108
6. 前照灯の明るさ及び主光軸の向き （前照灯試験機）	112
7. 警音器の音の大きさ（騒音計等）	115
8. 速度計の指度の誤差（速度計試験機）	116

1. 自動車の構造関係

1 不適切な補修等

[過去出題例]

- ☑1. 平成30年1月に製作された普通貨物自動車において、道路維持作業用自動車（道路交通法（昭和35年法律第105号）第41条第4項の道路維持作業用自動車）ではなかったが、車体上部に黄色回転灯がマグネットによる簡易的な取付方法で取付けられていたため、自動車検査員は保安基準に適合と判断した。[R6.2]
- ☑2. 平成29年12月に製作された普通貨物自動車（緊急自動車を除く。）の車体上部に緊急自動車の警光灯に形状が類似した赤色灯火が取付けられていたが、当該灯火に係る電球及び全ての配線が外され、かつ、灯火器本体はカバーで覆われていたため、自動車検査員は保安基準に適合と判断した。[R6.1]
- ☑3. 平成29年7月に製作された普通貨物自動車（緊急自動車を除く。）の車体上部に緊急自動車の警光灯に形状が類似した赤色灯火が取付けられていたが、当該灯火器本体はカバーで覆われていたため、自動車検査員は保安基準に適合と判断した。[R5.1]
- ☑4. 令和2年7月に製作された小型貨物自動車において、前部霧灯の点灯状態を確認したところ、不点灯状態であったが、電球（光源）が備えられていたものの、配線が取外されていたため、自動車検査員は保安基準に適合と判断した。[R4.1]
- ☑5. 平成30年1月に製作された普通貨物自動車において、最大積載量の車体表示を確認したところ、マグネットにより車体後面に取付けられており、手で容易に取外することができる状態であったため、自動車検査員は保安基準に不適合と判断した。[R5.2]

◎正解 1…×：2…×：3…×：4…×：5…○

[関係法令]

◆審査規程◆4-4 不適切な補修等・要約

[保安基準に適合しないもの] ※自動車の製作年月日を問わず、この基準が適用される。

①装置又は部品の取付け
ア. 粘着テープ類（*1）、ロープ類又は針金類による取付け
イ. 挟込み又は差込みによる取付け等、工具を用いずに容易に取外すことのできる方法による取付け
ウ. 扉、窓ガラス等の開閉により脱落する又はそのおそれがある取付け
エ. フェンダー等走行装置の回転部分附近の車体にベルト類、ホース類、粘着テープ類（*2）、紙類、布類、段ボール類、スポンジ類又は発泡スチロールが取付けられているもの
オ. 装備義務がある灯火器の配線、配線の周囲の保護部材等が、自動車の外側表面上に確認できるもの（*3）
カ. 保護棒又は保護仕切であって、車体側に保護棒又は保護仕切を備えるための受け口を設けずに内側から押し広げる力によって両側壁等をつっ張る仕組みのもの
②装置又は部品の取外し
ア. 緊急自動車の警光灯に形状が類似した灯火であって、当該灯火に係る電球、全ての配線及び灯火器本体が取外されていないもの ▷カバー類、粘着テープ類その他の材料により覆われているものを含む。
イ. 不点灯状態にある灯火であって、当該灯火に係る電球、光源及び全ての配線が取外されていないもの（速度表示装置を除く）
ウ. タイヤの取外しにより、軸数を減ずるもの又は複輪を単輪にするもの

③装置又は部品の補修
ア. 粘着テープ類（＊1）、ロープ類又は針金類による補修
イ. 灯光の色の基準に適合させるため、灯火器の表面に貼付したフィルム等がカラーマジック、スプレー等で着色されているもの
ウ. 空き缶、金属箔、金属テープ又は非金属材料を用いて排気管の開口方向が変更されているもの
エ. 排気管又は消音器に空き缶、軍手、布類、金だまし等の異物が詰められているもの
オ. 灯火器の照射方向の調整が、段ボール、木片等の異物の挟込み、差込み又は取付けによる方法その他工具を用いない方法で行われているもの
カ. 後写鏡に内蔵された灯火が、粘着テープ類その他の材料により覆われているもの
キ. 前照灯の光度や照射光線の向きに適合させるため、レンズ面に油類を塗布しているもの又は粘着テープ類を貼付しているもの
④車体又は装置への表示
▷最大積載量の表示など
ア. 貼り付けられた紙又は粘着テープ類に記入されているもの ▷表示を目的として製作されたステッカーを除く。
イ. 表示された内容が容易に消えるもの
ウ. マグネット、吸盤等により取付けられており手で容易に取外すことができるもの ▷スクールバスの表示を除く（スクールバスの表示はマグネットや吸盤で取付けてもよい）。

- * 1：自動車用部品の取付けを目的として設計・製作されたものを除く。
- * 2：自動車用部品の取付けを目的として設計・製作され、当該目的のために貼付されたものを除く。
- * 3：溶接、リベット、ボルト・ナット又はねじにより確実に取付けられていることが明らかな灯火器にあっては、当該灯火器を取付けるための必要最小限の配線部分を除く。

2 長さ、幅及び高さ

【過去出題例】

- 1. 自動車は、告示で定める方法により測定した場合において、幅（ ）m を超えてはならない。[R6.2]
- 2. 自動車に備えられている外開き式の窓は、開放した状態で測定した場合において、その自動車の最外側から 300mm 以上突出してはならない。[R6.2]
- 3. 自動車に備えられている外開き式の窓は、開放した状態で測定した場合において、その自動車の最外側から 250mm 以上突出してはならない。[R4.1]

◎正解 1…2.5：2…×：3…○

【関係法令】

◆審査規程◆7-2 長さ、幅及び高さ・要約

【大きさの上限】※自動車の製作年月日を問わず、この基準が適用される。

長さ	幅	高さ
12m（告示で定めるセミトレーラは 13m）（＊）	2.5m	3.8m

*セミトレーラの長さは、連結装置中心から当該セミトレーラの後端までの水平距離。

【突出限度】※自動車の製作年月日を問わず、この基準が適用される。

種類	測定する状態	突出量の範囲
①外開き式の窓・換気装置	開放状態	最外側から 250mm 未満（＊1）、
②後写鏡・後方等確認装置	取付状態 （＊2）	高さから 300mm 未満
③直前直左鏡・その他の装置		
④周辺監視装置		最外側から 100mm 以下（＊3）、高さから 100mm 以下

注：表中の種類欄に掲げる全ての装置について、自動車の長さ方向には、突出量の制限を受けない。

1. ブレーキ制動力

1 制動力の判定基準の単位

制動力の判定基準では、単位に「N/kg」が使われている。この単位について解説する。

「N」は力の単位である。1Nは、質量1kgの物体に1m/s²の加速度を生じさせる力と定義されている。地球の重力加速度は約9.8m/s²であることから、質量1kgの物体に作用する重力は、1kg × 9.8m/s² = 9.8Nということになる。

一方、「kg」は質量の単位である。自動車については、前軸重や後軸重、車両重量の単位に使われている（重量の単位は慣習的に「kg」が使われている）。

判定基準の「N/kg」は、重量あたりの制動力ということになる。例えば、1N/kgは重量1kgあたり1Nの制動力であることを表している。仮に自動車の重量が1000kgであるとすると、制動力は1000Nとなる。この値がどの程度の大きさであるのか、判断する際の目安となるものに、自動車の重力がある。仮に自動車の制動力と重力が等しいとすると、重量1kgに作用する重力は9.8Nであることから、制動力の割合は9.8N/kgとなる。

自動車の重量に対する制動力の総和の割合は「4.90N/kg」と定められている。9.8N/kgを基準とすると、50%ということになる。同様に他の割合「3.92N/kg」「1.96N/kg」「0.98N/kg」「0.78N/kg」は、9.8N/kgのそれぞれ40%、20%、10%、8%となる。

制動力の判定基準に「N/kg」を使うことで、重量に応じて一定割合以上の制動力を備えなければならない。

2 制動力の判定基準値

審査事務規程（9-3）では、ブレーキ制動力を次のように規定している。

◆制動力の判定基準（編集部要約）

項目	制動力の判定基準	
主制動装置	制動力の総和	制動力の総和を審査時車両状態における自動車の重量で除した値が4.90N/kg以上であること。ただし、降雨等の天候条件によりブレーキ・テストのローラが濡れている場合には、4.90N/kgを3.92N/kgに読み替えて適用する。
	後輪の制動力の和	後車輪に係る制動力の和を審査時車両状態における当該車軸の軸重で除した値が0.98N/kg以上であること。
	左右の車輪の制動力の差	左右の車輪の制動力の差を審査時車両状態における当該車軸の軸重で除した値が0.78N/kg以下であること。
駐車ブレーキ	制動力の総和を審査時車両状態における自動車の重量で除した値が1.96N/kg以上であること。	

注：①審査時車両状態における自動車の各軸重を計測することが困難な場合には、空車状態における前軸重に55kgを加えた値を審査時車両状態における自動車の前軸重とみなして差し支えない。

②ブレーキ・テストのローラ上で前車軸の全ての車輪がロックし、それ以上制動力を計測することが困難な場合には、その状態で制動力の総和に対し適合するとみなして差し支えない。

◎これらの基準のうち、「4.90N/kg以上」「3.92N/kg以上」「0.98N/kg以上」「0.78N/kg以下」「1.96N/kg以上」の数値は完全に暗記しておく必要がある。計算値の適否を判定するために不可欠である。

◎「審査時車両状態」は、審査規程1-3（用語の定義）より、空車状態の自動車に運転者1名（55kg）が乗車した状態である。

◎注①の内容は、「審査時車両状態」の前軸荷重と後軸荷重を規定したものである。理論的には、運転者1名（55kg）の荷重が前軸と後軸に分配される割合を求め、空車時の前軸荷重に運転者前軸配分荷重を加えたものが「審査時車両状態」の前軸荷重であり、また空車時の後軸荷重に運転者後軸配分荷重を加えたものが「審査時車両状態」の後軸荷重である。しかし、この考えに従って「審査時車両状態」の前軸荷重と後軸荷重を求めるには、運転者の乗員荷重位置を調べなくてはならない。自動車の荷重は運転者1名（55kg）の荷重から比べると非常に大きいことから、注①では次に荷重を見なすと規定している。

「審査時車両状態」の前軸荷重＝空車時前軸荷重＋55kg

「審査時車両状態」の後軸荷重＝空車時後軸荷重

◎この規定により、運転者の乗員荷重位置がわからなくとも、空車時前軸荷重と空車時後軸荷重からブレーキ制動力の合否判定が出来るようになる。

また、問題を解くにあたっては、①ブレーキ・テストの状態（乾いている・濡れている）、②計算値の末尾の処理方法（左右差については小数点第3位を切り上げ、割合については小数点第3位以下を切り捨て）などに注意する。

2. 年度別計算問題

1 令和6年度 第1回問題

【1】表1の諸元の自動車について、ブレーキ・テストを用いて制動力を計測したところ表2のとおりでした。この結果から、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示及び独立行政法人自動車技術総合機構審査事務規程に基づき表3の()の中にあてはまる適切な数値を記入しなさい。[改]

※1：ブレーキ・テストのローラは乾燥している状態であり、ローラ上では車輪はロックしなかった。

※2：①、③は小数点第3位を切り上げ、小数点第2位までとすること。

※3：⑤、⑦、⑨は、小数点第3位以下を切り捨て、小数点第2位までとすること。

表1

最高速度		180km/h
車両重量	前軸	700kg
	後軸	390kg
乗車定員		5人

表2

主制動力 ※1	前輪	右	1,710N
		左	2,150N
	後輪	右	400N
		左	690N
駐車ブレーキの制動力		右	1,020N
		左	1,280N

表3

	計算値	判定根拠数値	
主制動力	左右の前車輪の制動力の差を審査時車両状態における前車軸の軸重で除した値	(①) N/kg ※2	(②) N/kg 以下
	左右の後車輪の制動力の差を審査時車両状態における後車軸の軸重で除した値	(③) N/kg ※2	(④) N/kg 以下
	後車輪にかかわる制動力の和を審査時車両状態における後車軸の軸重で除した値	(⑤) N/kg ※3	(⑥) N/kg 以上
	制動力の総和を審査時車両状態における自動車の重量で除した値	(⑦) N/kg ※3	(⑧) N/kg 以上
駐車ブレーキの制動力の総和を審査時車両状態における自動車の重量で除した値	(⑨) N/kg ※3	(⑩) N/kg 以上	

R6.1

解説

① 審査時車両状態における前軸重に対する左右差

制動力の前輪左右差＝制動力（前輪 左－右）＝2150N－1710N＝440N

審査時車両状態における前軸重＝車両重量（前軸）＋55kg＝700kg＋55kg＝755kg

$$\text{①} = \frac{\text{制動力の前輪左右差}}{\text{審査時車両状態における前軸重}} = \frac{440\text{N}}{755\text{kg}} = 0.582\cdots\text{N/kg}$$

設問の指示により小数点第3位を切り上げ、第2位まで求める。小数点第3位はこの場合「2」である。これを切り上げると、答えは「0.59N/kg」となる。

また、判定根拠数値は「②0.78N/kg以下」である。

第4章 年度別試験問題

本章では、問題文に製作年月の記載が無い場合は、全て令和4年1月製作車として模範解答及び解説を収録している。

4-1 ▷令和6年度第1回 自動車検査員教習修了試験

【1】 次の各々の文章は、道路運送車両法に規定されている事項に関して述べたものです。()の中にあてはまる条文の適切な数値又は字句を、選択欄から1つ選び(2回以上の選択可)、答えを記号で記入しなさい。

- この法律は、道路運送車両に関し、所有権についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び公害の防止その他の環境の保全並びに整備についての(①)を図り、併せて自動車の整備事業の健全な発達に資することにより、公共の福祉を増進することを(②)とする。
- この法律に規定する普通自動車、小型自動車、軽自動車、大型特殊自動車及び小型特殊自動車の別は、自動車の大きさ及び構造並びに原動機の種類及び(③)又は定格出力を基準として国土交通省令で定める。
- 何人も、国土交通大臣若しくは封印取付受託者が取付けをした封印又はこれらの者が封印の取付けをした自動車登録番号標は、これを取り外してはならない。ただし、(④)のため特に必要があるときその他の国土交通省令で定めるやむを得ない事由に該当するときは、この限りでない。
- 自動車の使用者は、点検整備記録簿を当該自動車に備え置き、当該自動車について法第48条(定期点検整備)の規定により点検又は整備をしたときは、遅滞なく、次に掲げる事項を記載しなければならない。
 - 点検の年月日
 - 点検の(⑤)
 - 整備の(⑥)
 - 整備を完了した年月日
 - その他国土交通省令で定める事項
- 自動車特定整備事業者は、次に掲げる事項について変更が生じたときは、その事由が生じた日から(⑦)日以内に、地方運輸局長に届け出なければならない。
 - 氏名又は名称及び住所
 - 法人にあっては、その役員の氏名
 - 事業場の所在地
 - 事業場の設備のうち国土交通省令で定める特に重要なもの
- 指定自動車整備事業者は、自動車検査員を選任したときは、その日から(⑧)日以内に、地方運輸局長にその旨を届け出なければならない。これを変更したときも、同様とする。
- 自動車検査証は、車台番号、使用者の氏名又は名称その他国土交通省令で定める事項が記載され、かつ、これらの事項、(⑨)その他国土交通省令で定める事項(以下「自動車検査証記録事項」という。)が電子的方法、磁気的方法その他の人の知覚によっては認識することができない方法により記録されたカードとする。

8. 地方運輸局長は、自動車（小型特殊自動車を除く。）が保安基準に適合しない状態にあり、かつ、その原因が自動車又はその部分の改造、装置の取付け又は取り外しその他これらに類する行為に起因するものと認められるときは、当該自動車の使用者に対し、保安基準に適合させるために必要な（10）を命ずることができる。

ア：10	イ：15	ウ：30	エ：45	オ：目標	カ：整備
キ：点検	ク：料金	ク：結果	シ：種別	ス：概要	セ：検査
ソ：目的	タ：大きさ	テ：実施日	ナ：総重量	ニ：必要性	ネ：交完検査
ノ：有効期間	ハ：総排気量	ホ：最高出力	ム：交付年月日	モ：交技術の向上	
ヨ：利益の向上					

【2】 次の1から15について、道路運送車両法及び関係法令等に照らして、適切なものには○を、不適切なものには×を記入しなさい。

- 令和2年に製作された総排気量が1.18ℓの内燃機関を原動機とする四輪自動車であって、長さ4.78m、幅1.68m、高さ1.98mの自動車の種別は、小型自動車である。
- 登録自動車の使用者は、その自動車を運行の用に供することをやめたときは、一時抹消登録の申請をすることができる。
- 自動車予備検査証の有効期間は、1月とする。
- 何人も、自動車の車台番号又は原動機の型式の打刻を塗まつし、その他車台番号又は原動機の型式の識別を困難にするような行為をしてはならない。但し、整備のため特に必要な場合その他やむを得ない場合において、国土交通大臣の許可を受けたとき、又は道路運送車両法第32条（職権による打刻等）の規定による命令を受けたときは、この限りでない。
- かじ取り装置のギヤ・ボックス、リンク装置の連結部又はかじ取りホークを取り外して行う自動車の整備又は改造は、特定整備に該当する。
- 自動車の使用者は、自動車の走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に、国土交通省令で定める技術上の基準により、灯火装置の点灯、制動装置の作動その他の日常的に点検すべき事項について、目視等により自動車を点検しなければならない。
- 車両総重量8t以上の自家用貨物自動車の使用者は、3月ごとに定期点検を実施しなければならない。
- 自動車検査証の有効期間は、旅客を運送する自動車運送事業の用に供する自動車、貨物の運送の用に供する自動車及び国土交通省令で定める自家用自動車であって、検査対象軽自動車以外のものにあつては1年、その他の自動車にあつては2年とする。
- 自動車特定整備事業者は、他人に対して法若しくは法に基づく命令若しくは処分に違反する行為（以下「違反行為」という。）をすることを要求し、依頼し、若しくは唆し、又は他人が違反行為をすることを助けないこと。
- 特定整備記録簿には、依頼者の氏名又は名称及び住所を記載しなければならない。
- 「乗車定員11人以上の自家用バス」の定期点検整備の点検時期は、6月ごとである。
- 「乗車定員10人以下の乗用の普通自動車のレンタカー」の定期点検整備の点検時期は、3月ごとである。
- 自動車点検基準別表第3（事業用自動車等の定期点検基準）において、車両総重量8t以上又は乗車定員30人以上の自動車に限り、走行装置「ホイール」の「ホイール・ナット及びホイール・ボルトの損傷」の点検は、12月ごとに行わなければならない。

14. 自動車点検基準別表第5（自家用貨物自動車等の定期点検基準）において、制動装置「センタ・ブレーキ・ドラム及びライニング」の「ドラムとライニングとのすき間」の点検は、6月ごとに行わなければならない。
15. 自動車点検基準別表第6（自家用乗用自動車等の定期点検基準）において、その他の「車載式故障診断装置の診断の結果」の点検は、2年ごとに行わなければならない。

【3】 次の各々の文章は、道路運送車両法及び関係法令等に関して述べたものです。（ ）の中にあてはまる適切な字句を、選択欄から1つ選び（2回以上の選択可）、答えを記号で記入しなさい。

1. 法第94条の2第1項の指定を受けた者（以下「指定自動車整備事業者」という。）は、同項の設備（自動車の検査の設備を含む。）、技術及び（①）を同条第1項に規定する基準に適合するように維持しなければならない。
2. 指定自動車整備事業者は、自動車（検査対象外軽自動車及び小型特殊自動車を除く。）を国土交通省令で定める技術上の基準により点検し、当該自動車の保安基準に適合しなくなるおそれがある部分及び適合しない部分について必要な整備をした場合において、当該自動車が保安基準に適合する旨を自動車検査員が証明したときは、請求により、保安基準適合証及び保安基準適合標章（法第16条第1項の申請に基づく一時抹消登録を受けた自動車並びに法第69条第4項の規定による自動車検査証返納証明書を受けた検査対象軽自動車及び二輪の小型自動車にあっては、（②））を依頼者に交付しなければならない。
3. 法第94条の5第1項の場合においては、自動車検査員は、国土交通省令で定める基準により、当該自動車が保安基準に適合するかどうかを検査し、その結果これに適合すると認めるときでなければ、その証明をしてはならない。この場合において、自動車検査員が当該自動車について国土交通省令で定める技術上の基準により同項の（③）を行い、その結果保安基準に適合すると認めた部分は、国土交通省令で定めるところにより、（④）において保安基準に適合するものとみなす。
4. 継続検査に際し、有効な（⑤）の提出があった場合には、法第62条（継続検査）の規定の適用については、当該自動車は、国土交通大臣に対する提示があり、かつ、保安基準に適合するものとみなす。
5. 法第94条の5第1項及び法第94条の5の2第1項の証明は、自動車検査員が保安基準適合証及び保安基準適合標章又は限定保安基準適合証に（⑥）し、及び押印することにより行う。ただし、指定自動車整備事業者が保安基準適合証に記載すべき事項を電磁的方法により登録情報処理機関に提供したときは、（⑦）に押印することを要しない。
6. 自動車検査員その他法第94条の5第1項及び法第94条の5の2第1項の証明その他の保安基準適合証、保安基準適合標章及び限定保安基準適合証の交付の業務に従事する指定自動車整備事業者並びにその役員及び職員は、（⑧）その他の罰則の適用については、法令により（⑨）に従事する職員とみなす。
7. 法第94条の5第1項の規定により保安基準適合証及び保安基準適合標章の交付を請求しようとする者は、法第94条の3第1項の指定自動車整備事業者に対して、自動車損害賠償責任保険証明書を（⑩）しなければならない。

第5章 暗記ノート

◎暗記用であるため、法令文の一部を省略しているものもあります。

◎保安基準については、自動車の製作年月により適用する規定が異なる場合がありますが、製作年月の記載が無い場合、令和4年1月製作車に適用される基準とします。

車両法

◆車両法の目的

1. この法律は、道路運送車両に関し、所有権についての公証等を行い、並びに【①】の確保及び【②】の防止その他の【③】の保全並びに整備についての【④】の向上を図り、併せて自動車の【⑤】の健全な発達に資することにより、公共の福祉を増進することを目的とする。

- ①安全性
②公害
③環境
④技術
⑤整備事業

◆用語の定義

2. この法律で「道路運送車両」とは、自動車、原動機付自転車及び【①】をいう。

- ①軽車両

3. この法律で「自動車」とは、【①】により陸上を移動させることを目的として製作した用具で軌条若しくは架線を用いないもの又はこれにより牽引して陸上を移動させることを目的として製作した用具であって、【②】以外のものをいう。

- ①原動機
②原動機付自転車

◆自動車の種別（法令）

4. この法律に規定する普通自動車、小型自動車、軽自動車、大型特殊自動車及び小型特殊自動車の別は、自動車の【①】及び構造並びに原動機の種類及び【②】又は定格出力を基準として国土交通省令で定める。

- ①大きさ
②総排気量

◆自動車の種別（別表第1）

5. 平成26年に製作されたガソリンを燃料とする総排気量が2.49Lの内燃機関を原動機とする四輪自動車であって、長さ4.69m、幅1.69m、高さ1.80mの自動車の種別は、【①】自動車である。

- ①普通

6. 平成30年に製作された総排気量が0.65Lの内燃機関を原動機とする四輪自動車であって、長さ3.35m、幅1.55m、高さ1.72mの自動車の種別は、【①】自動車である。

- ①小型

◆登録の一般的効力

7. 自動車（軽自動車、小型特殊自動車及び二輪の小型自動車を除く）は、自動車登録ファイルに【①】を受けたものでなければ、これを運行の用に供してはならない。

- ①登録

◆自動車登録番号標の封印等

8. 国土交通大臣は、自動車の【①】から当該自動車に係る自動車登録番号標の交換の申請があったときは、これを認めるものとする。

- ①所有者

9. 何人も、国土交通大臣若しくは封印取付受託者が取付けをした封印又はこれらの者が封印の取付けをした【①】は、これを取り外してはならない。ただし、整備のため特に必要があるときその他の国土交通省令で定めるやむを得ない事由に該当するときは、この限りでない。

- ①自動車登録番号標

◆変更登録

10. 自動車の【①】は、登録されている【②】、【③】、原動機の型式、所有者の氏名若しくは名称若しくは住所又は使用の本拠の位置に変更があったときは、その事由があった日から【④】日以内に、国土交通大臣の行う変更登録の申請をしなければならない。

10. ①所有者
②型式
③車台番号
④15

◆移転登録

11. 新規登録を受けた自動車について所有者の変更があったときは、新所有者は、その事由があった日から【①】日以内に、国土交通大臣の行う【②】の申請をしなければならない。

11. ①15
②移転登録

◆一時抹消登録

12. 登録自動車の【①】は、その自動車を【②】の用に供することをやめたときは、一時抹消登録の申請をすることができる。

12. ①所有者
②運行

◆自動車登録番号標の表示

13. 自動車は、交付を受けた自動車登録番号標を国土交通省令で定める位置に、かつ、【①】しないことその他当該自動車登録番号標に記載された自動車登録番号の【②】に支障が生じないものとして国土交通省令で定める方法により表示しなければ、運行の用に供してはならない。

13. ①被覆
②識別

◆車台番号等の打刻

14. 自動車の製作を業とする者、自動車の車台又は原動機の製作を業とする者及び国土交通大臣が指定した者以外の者は、自動車の【①】又は原動機の【②】を打刻してはならない。

14. ①車台番号
②型式

◆打刻の塗まつ等の禁止

15. 何人も、自動車の【①】又は原動機の型式の【②】を塗まつし、その他車台番号又は原動機の型式の【③】を困難にするような行為をしてはならない。但し、【④】のため特に必要な場合その他やむを得ない場合において、国土交通大臣の許可を受けたとき、又は法第32条（職権による打刻等）の規定による命令を受けたときは、この限りでない。

15. ①車台番号
②打刻
③識別
④整備

◆保安基準（自動車の構造）

16. 保安基準は、道路運送車両の【①】及び装置が【②】に十分堪え、操縦その他の使用のための作業に【③】であるとともに、通行人その他に危害を与えないことを確保するものでなければならない。かつ、これにより製作者又は【④】に対し、自動車の製作又は【⑤】について不当な制限を課することとなるものであってはならない。

16. ①構造
②運行
③安全
④使用者
⑤使用

◆点検及び整備の義務

17. 自動車の使用者は、自動車の【①】をし、及び必要に応じ整備をすることにより、当該自動車を【②】に適合するように維持しなければならない。

17. ①点検
②保安基準